

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人
第5学年	国語	59人	算数	59人	理科	59人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

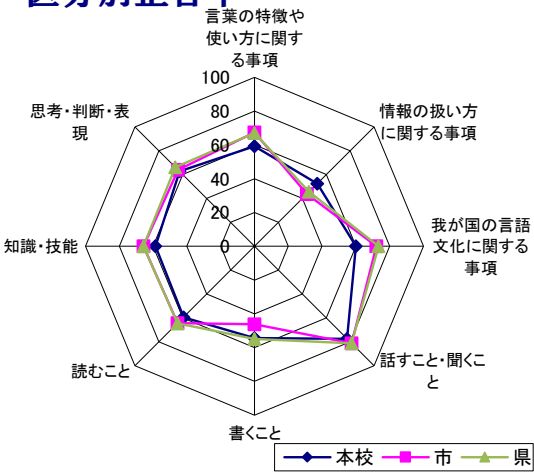
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	59.2	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	52.5	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	60.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	77.5	81.2	81.2
	書くこと	54.4	46.2	54.9
	読むこと	59.4	64.3	64.5
観点	知識・技能	58.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	62.7	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

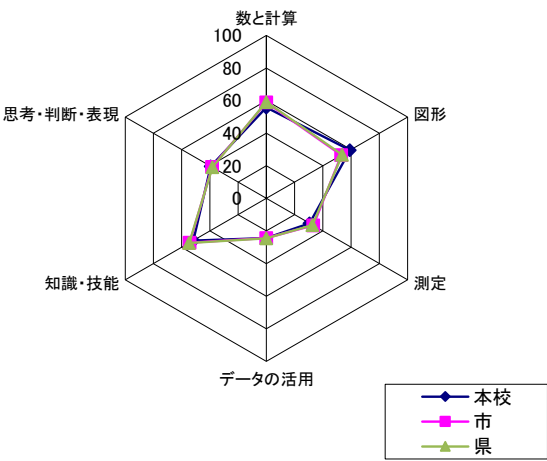
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●3学年に配当されている漢字を読むこと、書くこと共に課題が見られる。 ●反対の意味を持つ言葉を捉えることが難しい児童が多い。 ●漢字を書くことに苦手意識があり、無回答率が高い。	・習っている漢字だけでなく、既習の漢字の復習を取り入れながらノート指導を行う。 ・授業でも対話的な学習を積極的に取り入れ、語彙力をつける。 ・ローマ字の理解を深めるために、国語と外国語の連携を図り、活動を工夫していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○市の平均と比べると、国語辞典の使い方を理解し、文と意味を照らし合わせて読むことができている児童が多いものの、正答率は52.5%であった。	・今後も定期的に国語辞典を使って意味を調べる活動を設定していく。 ・国語辞典を用いた小活動を授業に取り入れることで、索引の速度をあげるだけでなく、語彙力向上も図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字のへんやつくりを理解している児童が少ない。 ●問題に対する無回答率が市平均の約2倍である。	・漢字の指導の際に、へんやつくりについても関連付けながら指導していく。 ・授業の導入や新出漢字の学習の際に、同様のへんやつくりの漢字を挙げさせる活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●話し手の伝えたいことを理解し、まとめることが難しい。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由をつけて説明するのが難しい。 ○話した内容を他者がまとめたものを理解することはできる。	・中心となる語や文を聞き取り、話の内容をとらえる力を育てていく。 ・考えをまとめ、伝える相手を設定して話す機会を多く設ける。 ・他者がまとめたものを理解することはできるので、聞いた内容を要約したりまとめたりする機会を増やす。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文を書くことができる。 ○無回答率は市平均の約半数である。 ●指定された長さで文章を書くことに課題がある。	・文章の長さを指定して書く活動を、国語科の授業だけでなく他教科でも取り入れる。 ・文章を書くことに対する抵抗感、苦手意識は少ないので、正しく文章が書けるように推敲の活動などを取り入れる。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●物語文の場面について、叙述をもとに内容を捉えることが難しい。 ○段落を内容ごとにまとめたり、他者がまとめたものを理解したりすることができる。	・物語文の内容を読み取る練習を増やし、登場人物の心情を考える活動を行う。 ・現実の生活と結び付け、自分ならその場面でどう思うかなど、心情を捉えやすいように場を設定する。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.8	58.9	59.2
	図形	59.2	53.0	53.7
	測定	30.6	33.1	32.6
	データの活用	24.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	51.8	54.3	54.7
	思考・判断・表現	39.4	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

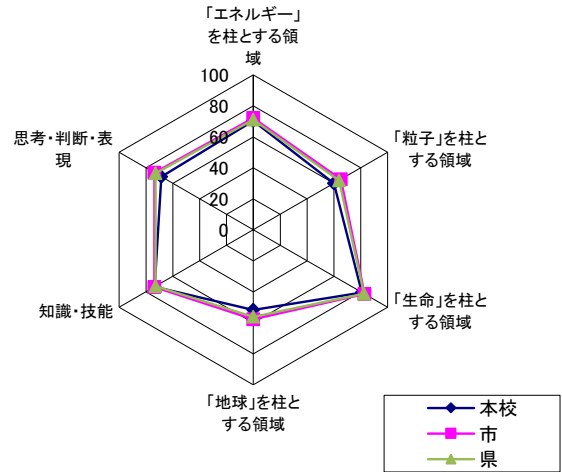
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○分数や小数の仕組みを数直線で表す問題は市の正答率と比べて高い。式の意味を言葉で説明したものについて選ぶ問題では市の平均よりも11.6ポイント高い。 ●大きな数の表し方を選ぶ問題では、市の正答率より低い。また、余りを切り上げる考え方の問題では、市の正答率より10ポイント以上低い。	・選択問題ではできるが、自ら説明する問題が苦手な傾向があるので、自分の考えを説明する機会を意図的に設け、表現する力を育てていく。 ・計算力は市の平均と同程度となっている。これは、校内で計算オリンピックを毎年行ってきた結果と考えられるので、今後も継続していく。 ・数の表し方、整数の計算の意味や余りについて理解させ、計算をさせるようにする。
図形	平均正答率は市の平均より6.2ポイント高い。 ○球の半径を利用して箱のたての長さを答える問題では、市の正答率より4.4ポイント高い。円の性質を利用した正三角形の作図の問題では、市の正答率より18.6ポイント高い。 ●二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、市の正答率より、4.7ポイント低い。	・描いてある図形に対しては理解することができるが、そこから先を想像することが苦手な傾向にあるため、具体物を操作する活動を通して、体験的に理解できるようにする。
測定	平均正答率は市の平均より2.6ポイント低い。 ●地図から二つの道のりを読み取り、差を答える問題では、市の正答率より8ポイント低い。	・測定の意味については理解しているが、文章から必要な情報を整理して選ぶことを苦手としている傾向があるので、必要な箇所を線を引いたり、確認したりすることにより問題文を理解できるようにする。
データの活用	平均正答率は市の平均と同程度。 ○目盛りの付け方が異なる2つのグラフで棒の長さで数を比べられないわけを説明する問題では市の正答率より6.5ポイント高い。 ●棒グラフを読み取り、落とし物の数が一番増えた種類を答える問題では、市の正答率より7.7ポイント低い。	・算数だけではなく、理科や社会など他教科の授業でも一つのグラフからいろいろな情報を正しく読み取ることができるようになるようにさせる。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.3	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	60.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	80.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	51.7	57.7	56.2
観点	知識・技能	73.5	73.8	72.8
	思考・判断・表現	68.5	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同程度だった。 ○「風のはたらき」や「磁石の性質」等の基本的な問題は比較的正答率が高かった。 ●学習したことを活用して記述式で答えたり、推測して考えたりする問題に課題が見られる。	・授業の中で自分の言葉で予想や考えを表現する場面を増やし、記述式や推測して考える問題への抵抗感を軽減するように努める。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○ものの種類によって重さが違うことを表と関連付けて答える問題がよくできている。 ●形を変えても重さは変わらないことについての問題に課題が見られる。	・単元の導入やまとめの際に、日常生活の中で経験する様々な事柄と結び付けて考える機会を意図的に設ける。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同程度だった。 ○他の分野に比べ、全般によくできている。 ●「植物の芽生え」と「植物の体のつくり」について答える問題にやや課題が見られた。	・今後も実験・観察等の活動の場を充実させ、実物を見たり体験したりする場を確保していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●影のできる向きと太陽が動く方位についての問題に課題が見られる。 ●方位磁針の正しい使い方についての問題の正答率は市と同程度だが、47.5%と半数に満たなかった。	・答えは分かっているが、問題文が長いと、何を問われているか分からなくなる傾向がある。基礎的な知識を確認すると共に、問題練習の場を活用し、学習したことを文章に書いてあることと比べたり重ねたりして読む力を育てていく。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について、肯定的回答が91.5%で県の肯定的回答よりも7.3ポイント高い。今後も児童の興味を引くようなわかる授業を推進していく。

○「授業を集中して受けている」についても、肯定的回答が100%で県の肯定的回答よりも7.9ポイント高い。授業に対して集中することができているので、今後も継続させたい。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」について、肯定的回答が60%とあまり高くはないが、県の肯定的回答を8.2ポイント上回っている。得意ではない児童もみられるが、意図的にペアやグループ学習を取り入れたり、1分間スピーチで質問を受けたりするなど、児童が話しやすい雰囲気を作って支援していく。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」についての肯定的回答88.6%で県の肯定的回答を10.2ポイント上回っている。学習を理解したいという意欲をもっているのので、その日のうちに解決できるように支援をしていく。

○「学校のきまりを守っている」について、肯定的回答が100%で県の肯定的回答を5.6ポイント上回っている。きまりを守って生活することは、学校生活のすべての基盤となっていくので、今後も継続して支援を続けていく。

○「毎日同じくらいの時頃に寝ている」について、県の肯定的回答を6ポイント上回っている。家庭での支援や声掛けが十分になされていることが分かる。今後も学校と家庭が連携を図ることで、児童がよりよい生活を送れるようにしていきたい。

○「時間を上手に使うことを心がけている」について、肯定的回答85.7%で、県の肯定的回答を5.8ポイント上回っている。限られた時間の中で、自分で考えて計画的に物事を進められるよう、今後も指導していきたい。

○「歴史上の人物や出来事を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」について、肯定的回答71.4%で県の肯定的回答よりも5.9ポイント高い。今後も図書室での学習の際に歴史の本を紹介したり、歴史上の出来事について話す機会を設けたりして、児童が興味関心をもつような手立てを工夫していく。

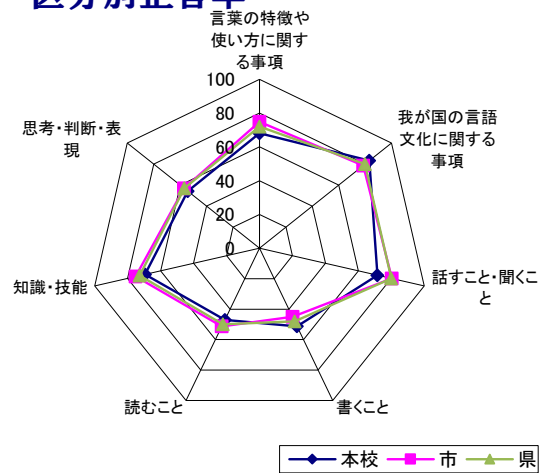
●「難しい問題に出会うと、よりやる気がでる」については、肯定的回答が51.4%で県の肯定的回答よりも7.6ポイント低い。AIDリルを使った基礎的な問題の復習や応用的な問題に取り組む機会を設け、自力解決できるように支援していく。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」については、肯定的回答が77.2%で県の肯定的回答よりも6ポイント低い。AIDリルを活用して基礎的な学力を身に付け、自力解決できるように促していく。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.1	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	83.1	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	71.6	80.4	80.0
	書くこと	51.3	45.1	48.0
	読むこと	47.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	69.5	75.2	72.8
	思考・判断・表現	54.2	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

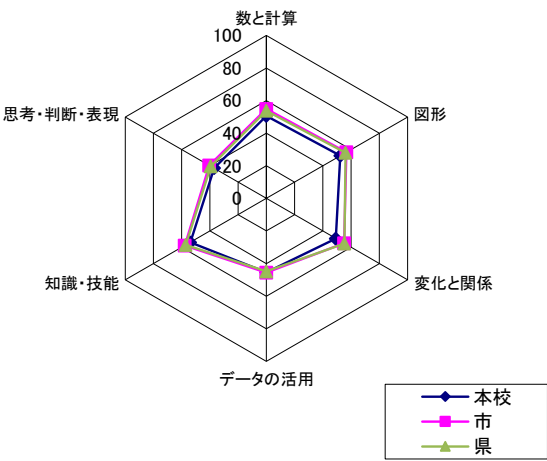
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読むことに関しては、市平均と同程度であり、語句の正しい意味を理解する問いでは、市平均を上回っていた。 ●漢字を正しく書くことに関する問いで平均正答率が低く、「兵隊」を書く問いでは市平均の約半分であった。	・既習の漢字の復習を授業で取り入れるなど、現在習っているものと並行して復習をする必要がある。 ・作文指導において、添削する際に既習の漢字に直させるなど、漢字で言葉を書く機会を増やす。 ・無回答の児童も多いため、試験形式で漢字の到達度を確認する機会を設けていく。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○慣用句「頭をひねる」を正しく選択している児童は、市平均よりも4.5ポイント高い。 ○無回答は0ポイントであり、全員が問題に取り組んでいる。	・日常生活の中で、慣用句やことわざに触れる機会をつくる。例でいえば、朝の会での紹介や掲示物による視覚的な情報の提示などが挙げられる。 ・スピーチや作文のなかで、慣用句やことわざを取り入れる条件を提示し、授業の中でも使う機会を設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●話し手が伝えたい内容の中心を捉える力に課題がある。 ●話の内容の要点をまとめるなど、短く伝わりやすい文章にまとめることに苦手意識がある。	・朝のスピーチで、相手に伝わるように自分の考えをまとめて話をする練習をしたり、スピーチしたことに対して質問を考えさせたりさせる。その際に、話をする型、質問をする型を用意する。 ・話す内容を一度書くことで、内容が相手に伝わりやすいかなどを確認する機会をつくる。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○指定された長さで文を書くことができる。 ○内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことができる。 ●記述式の問題に対する無回答がやや高い。	・日常での国語の授業や宿題、朝の学習などの機会を使って、指定した長さや条件で短文や長文を書く活動を取り入れる。 ・各教科の関連を図り、まとめや考察などを各活動などに生かしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○段落を内容ごとに分ける問題では、市の平均より10ポイント以上高かった。 ●選択式の問題よりも、短答式・記述式の問題の正答率が低く無回答率も高い。 ●文章全体を説明したもの、まとめたものを理解することに苦手意識がある。	・ワークシートなどを授業で活用する際に、問題に近い形で発問を行い、記述するという機会を増やす必要がある。 ・説明文や物語文などの長文を扱う単元では、まとめを丁寧に行い、ノートに自分なりに考えたまとめを記述する機会を設ける。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.6	54.9	53.7
	図形	52.3	56.6	56.1
	変化と関係	49.2	55.1	55.2
	データの活用	45.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	53.9	57.8	57.2
	思考・判断・表現	37.1	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

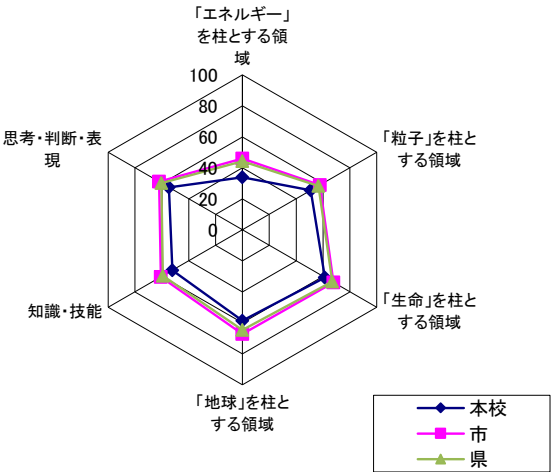
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より4.3ポイント低い。 ○大きな数の表し方は市の正答率より9.1ポイント高い。また、27は0.27の何倍かを選ぶ問題では市の正答率より6.2ポイント高い。 ●除法の性質を利用した計算のくふうについて説明する問題では市の正答率より11.8ポイント低い。	・ペア学習やグループ学習を通して自分の考えを発表する場を設定し、さらに学級全体で共有する。 ・習熟度別学習を図るとともに、基本的な計算能力がつくように家庭学習や一人一台端末を活用した学習を行っていく。
図形	平均正答率は市の平均より4.3ポイント低い。 ○面積の求め方について、示された求め方をもとに、ただしい式を選ぶ問題は市の正答率と同程度。 ●立体の展開図を選ぶ問題では市の正答率と比較して12.3ポイント低い。	・立体図形を平面図形に表したり、平面図形から立体図形を構成する活動を通して、空間についての感覚を豊かにする。 ・一人一台端末を活用して様々な図形のシミュレーションをする。
変化と関係	平均正答率は市の平均より5.9ポイント低い。 ○表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題や割合を使った比べ方について説目する問題は市の正答率と同程度。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題は市の正答率より17.7ポイント低い。	・系統性を意識して前学年の学習を踏まえて既習事項をもとにして考えたり判断したりして解決できるようにさせる。 ・一人一台端末で既習事項をいつでも確認できるようにする。
データの活用	平均正答率は市の平均とほぼ同程度。 ○表の数が何の数を表しているかを答える問題では市の正答率より7.6ポイント高い。表から分かることとして正しいものを選ぶ問題は市の正答率より2.1ポイント高い。 ●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題では、市の正答率より7.7ポイント低い。	・算数だけではなく、理科や社会など他教科の授業でも一つのグラフからいろいろな情報を読み取ることができるようにさせる。 ・授業の中でも思考のプロセスを説明する場を設け、思考の可視化を図り、言葉で説明する力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	33.9	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	50.9	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	61.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	58.6	67.2	64.6
観点	知識・技能	52.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	54.8	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より12.1ポイント低い。 ●回答を複数記入したり、選ばなければならない設問である「簡易検流計のふれかたからわかること」の正答率が15%で無解答が22%、「電流が同じ大きさの回路をえらぶ」の正答率は30%、無回答は18%であった。解答を複数選ばなければならない設問での無解答率が高くなっている。	・実験を通して、語句と事象の結びつきを考えさせる。また、実験結果を自分の言葉でまとめられるように指導する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○閉じ込めた空気や水の性質に関する設問正答率は、91%と市の平均より高かった。 ●金属の温度と体積の変化に関する設問の正答率は、83%と市の平均よりやや低い。 ●実験結果を一文で書き表すような設問の無回答率が、市や県の割合に比べるとやや高めである。	・実験や観察を通して学んだことを、自分の言葉で記述し、対話をしながら深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●植物の一年間の様子を順を追って答える設問の正答率20%と、市の正答率が38%なのに対して低い。	・観察では、観点を合わせて比較することを事前に確認するようにする。また、言葉だけの理解にとどまらずに、実物やイラストと一致できるように指導する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より10ポイント弱ほど低い。 ○水の流れ方を答える設問での正答率は83%であり、市と同等であった。 ●気温のはかり方を回答する設問での正答率が40%であり、市の67%と比較すると低い。	・実験や実体験に基づいた学習は、よく定着していると考えられるが、基礎的な知識について定着に差が見られるので、定期的な復習を行う。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」に対する肯定的回答は92.8%で、県よりも2.1ポイント、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」については86.5%で、県よりも3.8ポイント高い。今後も目標を明確に示し、課題に取り組む時間を確保しつつ、自分が学んだことや成長をふりかえる活動を取り入れていく。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」に対する肯定的回答は94.9%で、県よりも1.3ポイント高い。また、「自分には、よいところがあると思う」については肯定的回答は84.8%で、県よりも2.7ポイント高い。目標に向かって努力し、自分の良さに気付いている児童が多いことが伺える。得意なことや興味感心の高いことだけでなく、苦手なことに対しても、最後までやり遂げられるように声をかけ、自分の新たな良さに気付かせるようにしていきたい。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」に対する肯定的回答は91.5%で、県よりも4.2ポイント、「自分は家族の大切な一員だと思う」については96.6%で、県よりも2.4ポイント、「家でのかまりや約束を守っている」については93.3%で、県よりも2.7ポイントそれぞれ高くなっており、良好な家族関係が伺える。

●「家で、学校の授業の予習をしている」についての肯定的回答は33.9%で、県よりも21.5ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」については37.3%で、県よりも30.5ポイント、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」については44.1%で、県よりも20.8ポイントそれぞれ低くなっている。また、「家の人と学習について話をしている」についても67.8%で、県よりも10ポイント低い。家庭での自主的な学習に取り組めるよう学校から啓発し続けるとともに、良好な家族関係が伺えることを生かして、家庭内でも学習への意欲付けができるよう、家庭との連携をとっていく。

●国語、社会、算数、理科の学習が好きだと答えている児童の割合は、県と比較してそれぞれ17ポイント以上低い。また、各教科が将来のために大切かどうかを聞いた質問に対しても、県と比較すると低い。肯定的な回答をした児童は8割近くおり、決して低くない。学ぶことの必要性を感じていることを大切にしながら、学習効果を上げられるように授業内容を工夫していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えた児童の割合は81.4%で、県よりも17.8ポイント低い。学校で統一して児童に配付している「つなぐ言葉・ふりかえりの言葉カード」を活用したり、一人一台端末を使用して個別最適な学びを実施したりしながら、書くことへの抵抗を減らしていきたい。

宇都宮市立清原東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学習を身に付け言語感覚を豊かにする指導の工夫	・漢字計算オリンピック、朝の学習等の工夫による基礎・基本の定着。 ・言葉に着目させる問いかけの工夫と効果的な言語活動の設定。 ・一人一台端末を活用した反復練習を行い、漢字や語句の理解や計算力をつける。	・国語では言葉の特徴や使い方に関する事項で、算数では数と計算で課題が見られた。 ・条件に合わせて書く活動に苦手意識が見られた。 ・授業で自分の考えを文章にしてまとめて書くことは難しいと答えた児童が4・5年とも多い。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の工夫	・課題解決の意欲をもたせる導入の工夫 ・言葉に着目させる問い掛けと効果的な言語活動の設定。 ・全児童における「つなぐ言葉・ふりかえりの言葉」カードの活用と表現力の向上。 ・一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い。	・「人と話すことは楽しい。」と感じている児童は比較的多い。また、半数以上の児童が、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意と感じている」。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・語彙力や自分の考えを書くための表現力が不十分である。	・語彙力や表現力を付ける取組の工夫	・視写に取り組ませたり、国語辞典、漢字辞典を活用し語句を増やしたりすることにより表現力を養う。 ・国語の授業では、児童が見通しをもち意欲的に取り組めるような言語活動を工夫する。
・家庭での学習時間が少ないことや予習・復習などの自主学習への取組に課題がある。	・家庭学習の充実を図る取組。	・自主学習を計画的に取り組めるよう、「家庭学習の約束」や「家庭学習のすすめ」を配付し、家庭学習の啓発をする。 ・漢字計算オリンピックに合わせて家庭学習の充実を図り、児童の学習への意欲を高められるよう、家庭との連携を図る。